



第1号

IPPO

はじめの一歩の会

平成22年3月25日発行

この号の内容

- はじめの一歩の会 設立趣旨1
- 私の思い 子どもの頃からこの町に暮らして 会長 篠原良子1
- 安全で健全なまちづくりへの願い 会員 川名 一栄、宅間 和子 ..2
- 活動紹介 ご自宅を訪問して 会員 箱守 由記、鈴木 芳子2
- これまでの活動 ○活動実績 ○これからの活動3
- 会員募集 ご案内3
- 活動支援で期待すること 事務局 聖路加看護大学 山田 雅子3
- NEWS 研修・見学・交流レポート
第14回 日本在宅ケア学会学術集会 聖路加看護大学 麻原きよみ4
- 交流メッセージ 皆さんからいただきました4

はじめの一歩の会 設立趣旨

伝統とダイナミズムが共存する豊かな水の街・中央区。この町の魅力をフルに活用し、住みなれた地域で死ねるまちづくりを目指して区民の力が結集し、「はじめの一歩の会」が誕生しました。「はじめの一歩の会」は2007年4月に発足し、区民と聖路加看護大学との協働プログラムとして

運営されています。町は人を育む大切な場所。それは安全で健全、そして何よりも住む人が愛着を持つ特別な場所です。そこに住む人々の交流を通して人間関係が生まれます。この人間関係を育むために私たちは活動を行っています。

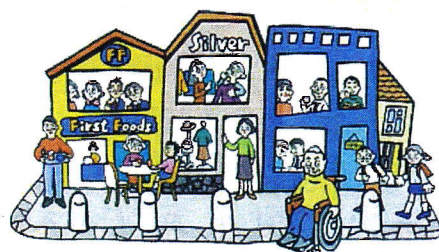
私の思い 子どもの頃からこの町に暮らして



会長 篠原 良子

私の住んでいる町は、子どもの頃は粋で、黒堀が多く、夜は新内の三味の音が夜風に乗って流れて来たり、お座敷の賑わいを聞きながら勉強机に向かっていました。役者さんの住まいも多く有名な俳優さんを見かけました。相撲太鼓も聞かれ、町会では季節毎に行事が行われ、子ども会などもあり、商いの町としておかみさんがしっかりと家を守り、沢山の知恵袋をもって地域を支えていました。人々が尊敬し合い、磨き合い、助けあった生活術がありました。それは日本の文化として誇れるものです。江戸の香がする日本橋、京橋、月島などの中央区は歴史と文化を誇れる町です。「はじめの一歩の会」は聖路加看護大学のホスピスボランティア講座受講生ほか有志

が誕生させ、「家で死ねるまちづくり」を目標に専門家の方や一般の方々が一緒にボランティア活動を始めました。毎月定例会を開き実働活動として高齢者の皆さんに少しでも傍にいて耳を傾けご本人やご家族が穏やかに日常を過ごすことが出来るようなお手伝いをお願いします。一歩を踏み出したばかりで未熟な私たちには課題は山積みですが、互いに喜びが持てるようにと研鑽しています。研修会、講演会、施設訪問、他団体との交流、介護技術の習得講座、住みやすいまちづくりをめざし、子どもたちと一緒に「子どもとためす環境まつり」での体験学習に参加協力したりと私たちの心のウォーミングアップをして活力をつけています。いつかは利用者の皆さんが気軽に立ち寄れるセンターをと夢に向かっていきます。



“安全で健全なまちづくりへの願い”

会員 川名 一栄

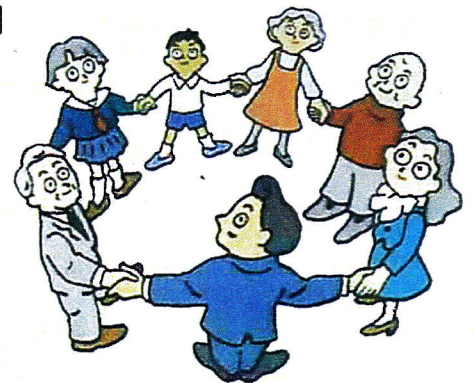
私は、家で薬局をしながらか、ケアマネをしている。夫の両親を在宅で看取った。介護保険が出来る前だったので、息子と娘の協力でやっと介護が出来た状態だった。父が「ありがとう」と言って他界した。「大変だったけれどやっぱり家がいいんだな」と、その時感じた。自分も大病をして病人の気持ちを経験した。殆どの高齢者が「在宅で過ごしたい」と云う希望を持っているが諸事情で中々実現が難しい。しかし、地域で助け合える輪があれば、何とか在宅で過ごせると思う。社会福祉協議会には「ふれあい委員会」があって、地域で知らない人同士が声を掛け合い、知り合う制度であり、住んでいる人

会員 宅間 和子

持病の喘息に加えて妙に痩せてきた母は、本人告知はしていないが大腸がんだった。「お父さんがね、おまえに死なれたら困るって泣いたから手術したよ」とけろりとした調子で連絡をしてきた。悪いことは続くもの、酒を愛した父は肝臓がんと分かって二ヶ月目にあつてなく死んだ。結局、母を一人にしておけなくて実家に戻った。以来、九十三歳の死までの二十年近くを老いをたっぷり学びつつ、めでたく老々介護を全うしたと言えようか。しかし、この母と娘、一緒に暮らすには性格が似過ぎていて結構ぶつかり合った。「誰があんたの世話になるものか」と言い、外では「うちの娘は介護の

自身も心強いのではないか。地域づくりは大切だと思う。「お年寄り相談センター」が京橋、月島、日本橋に出来た。地域ベースで考えられるものだが、人と人がつながらないと出来ないし、機能しないと思う。会の発起人としての共通認識は「中央区のことを勉強し、地域で何かボランティアが出来ないかを考えたい」という気持ちが強かった。きっと私たちと同じ考えや気持ちを持った人がもっているはずだから「参加できる人から」「できることからはじめれば」ということで「はじめの一步の会」が発足した。中央区にお住まいの方々がボランティア活動を通じて、一緒に考えて同じような気持ちを持つ仲間をつなげたい」と云うのが目標である。

専門家でね」と自慢していたのだそうだ。「入院は嫌」と言いながら毎月の受診日のお気に入りの医師の前では、しゃんとして機嫌が良い。デイケアも楽しんでいた。「困った時は困って生きてらいい」とは、そんな母の迷言だ。今私は、丈夫な内が花とばかり「はじめの一步の会」の会員、サービス提供側の後期高齢者ではある。で、いつサービスの受け手になるかは分からないと心得て、新鮮でスリリングな日々に関心を深めている。



動しています。ボランティア活動ですので、気持ちとしては全てのご要望に応じて差し上げたいと思っても限界があります。しかし、私たちが訪問したことに対して、来てくれたことを喜んでいただき、楽しんで貰えたら所期の目的は果たせたと思っています。活動の実績を更に積んで介助活動の基準が出来、それをサポートする地域のネットワークが構築出来ればと思っています。

活動紹介 ご自宅への訪問

会員 箱守 由記、鈴木 芳子(談)

私たちがご自宅を訪問する際には、ケアマネジャーの方から事前に、ご本人やご家族の状況などを詳しくお聞きして、訪問の1週間ほど前に、どのような視点でお手伝いをするかを決めています。必ず二人で組んで訪問していますので、ご本人の状況の変化や、ご家族が必要とされる手助けの要求度合いに応じて、互いに考えを調整してから行

これまでの活動

- 聖路加看護大学の協力で車いすの操作方法、移乗技術の習得など介護技術講座を開催しました。
- 地域のひとり住まいの高齢者宅を訪問して見守りを実施しました。
- 地域でがんと闘っている方を訪問して話し相手を実施しました。
- 地域住民の交流機会を提供しました。
- 「子どもためす環境まつり」に参加し、住みやすい町を子どもたちと一緒に体験学習しました。

(第3回京橋・築地小学校、第4回有馬小学校、第5回日本橋小学校、第6回久松小学校に参加)

これからの活動

- “家で死ねるまちづくり”の実現を目指します。
- 私たちの持っている経験を活かし、よりよく生きることを応援します。
 - 介護保険が使えない方に通院や観劇会や美術館などへ同行します。
 - ご自宅を訪問してお話を聞いたり、お茶を一緒に楽しめます。
- 勉強会や講演会を開催します。
- 子どもたちと高齢者の交流を通して共感しあえるまちづくりを考えます。
- 住み続けたいまちのアイデアを募集し、ネットワークを築いて行きます。

活動支援で期待されること はじめの一步の会事務局

聖路加看護大学 山田 雅子

はじめの一步の会は、中央区内の高齢者などが、少しでも人のぬくもりを感じながら自宅での生活を継続して行くことが出来るよう、互いに支えあうための活動です。私自身は訪問看護師として市民の方と関わって来ましたが、医療や介護の公のサービスだけでは支えられないのが現状です。会のメンバーの方々と沢山の教えを共有しながら歩んで行く方法を学習しています。一人からでも、できることから始めるのがこの会のモットーです。



活動実績

研修会

介護体験談	講師 勝田 高之さん
アロマテラピー	講師 菅野 佐百合さん
介護保険制度改正	講師 木村 紀子さん
京橋お年寄りセンター	講師 宇治川 紀子さん
ケアマネジャー	講師 川名 一榮さん
パリアン活動	講師 霜田 美奈さん
傾聴ボランティア活動	講師 箕輪 慎さん
NPOコミュニティ支援センター	講師 相原 和幸さん

講習会など

- 「第3回健康支援ボランティア講座」に参加
- 「聖路加市民講演会」に参加
- 「浜離宮クリーンエイド活動」に参加
- 「日本在宅ケア学術会議シンポジウム」に参加
- 「30年後の医療の姿を考える会マギーセンターから学ぶ」に参加

施設見学

- 「マイホームはるみ」を見学
- 「リハポート明石」を見学
- 「相模原あさみぞ特養ホーム」を見学
- 「ワタミ介護施設レストヴィラ錦糸町を見学」ほか

(平成20年5月～平成22年3月 現在)

会員募集

はじめの一步の会の会は、
会員を募集しています。
お気軽にお問い合わせください!

「はじめの一步の会」

会長 篠原 良子

事務局 聖路加看護大学内 山田 雅子

FAX:03-6226-6387

E-mail:masaymd@slcn.ac.jp



聖路加看護大学 麻原 きよみ(談)

会員の聖路加看護大学の麻原きよみさんが第14回日本在宅ケア学会学術集会の学術集会長を務められました。学会は平成22年1月23日、24日に開催されましたが、今回のテーマを「その人の生涯と家族を支える在宅ケア」として、在宅ケアに関連する広範囲な分野の専門家や実践者を対象として、臨床と実践の場の並存を目指した学会として参加者からも高く評価をされました。学会の総括者としてのご苦労はあったものの、麻原さんは、「介護保険法が施行されて、在宅ケアのサービスの巾と種類が大きく広がった。その一方で単純に本人と家族だけの問題だけではなく小児の問題や精神の問題も関連してくるようになっている。これらの全ては「法律」を背景としている。法律と法律の隙間で見落とされている課題によって、一般市民の方々が困っていることが

あるのではないかと。もう一度考えてみよう」と言う思いをテーマに盛り込んだと語っています。麻原さんの専門分野は「地域看護学」です。麻原さんは「世間体」というキーワードを挙げて、「介護保険が公的な規範になった反面、介護は国や自治体でやれば良いと言う主張も一部にある、それは地域の包括力、コミュニティの崩壊が背景にあるものと考えます。地域の捉え方には“特定の属性を共有している人々”“特定の価値観を共有している人々”の見方があるが、介護保険が全てをカバーする訳ではない。誰かと話したい、誰かの顔を見たいと思う高齢者の方に対して、地域を共有し合っている人々の力を如何に活用するかが必要で、「世間体」は、近隣社会の中に存在し、否定的に捉えるのではなく、肯定的に考えて行くことが必要だ」と言います。来年も学会が広島で開催されます。その報告に期待して下さい。



交流メッセージ 皆さんからいただきました

社団法人 中央区社会福祉協議会
事務局長 豊田 正文さん

記念すべき第一号(IPPO)という、はじめの一步おめでとうございます。本当は大丈夫かなと少し心配していましたが、でも、伝統ある町と人を愛する心は、良く磨かれた本物。知らぬ間に根を広げ、花が咲き、幹も着実に太くなり嬉しさ一杯です。乱世の時を向かえ、これからもどうぞ「江戸しぐさ」を十分に発揮し、「しなやかな」人間関係を大切に多彩で心豊かな素晴らしいコミュニティの輪を広げてください。

聖路加看護大学
客員研究員 大久保 菜穂子さん

「30年後の医療の姿を考える会」は、医療の現状を客観的に見つめ直し、将来の課題を明確にし、「安心して生活し、最期を迎えられる地域社会」の実現に寄与することを目指しています。今後の医療のあり方を市民と共に考えて行くことを活動の根幹とし、毎年シンポジウムを開催しています。今年度は英国でがん患者支援を行っている「マギー・センター」の方をお招きし、我が国のがん患者の相談支援のあり方について皆様と考えました。

岡山大学大学院保健学研究科
教授 長江 弘子先生

「はじめの一步の会」の皆さん、お元気ですか?晴れの国、岡山は、桃とマスカットの産地です。2年前、一人で一步を踏み出し岡山大学に来ました長江です。岡山でも市民のボランティア活動を含めた地域緩和ケアモデル「野の花プロジェクト」に取り組んでいます。勉強会を重ねながら人々と知り合う機会が楽しく、私にとって元気のもとです。

掲示板

〈振り込め詐欺にご注意を!〉

「息子を名乗った電話で、借金があると騙され、お金を振り込んだ。」が、騙されたと気が付き銀行口座を凍結し未遂に終わった。

(中央区危機管理課からの情報より)

「水際で詐欺の被害から救われた中央区内の事例です。怪しい電話がかかって来たら、慌てて振り込まないで周りの人に相談するか警察に電話をしましょう。誰かに話せば、未然防止の手を打つことも可能です」 (中央エフエムラジオシティからの情報を転用しています)



広報部会から

○編集後記

創刊第一号です。年間2回発刊します。

皆さんからのご意見感想をお寄せください。

会報:IPPO 住所:中央区日本橋浜町1-6-1
編集:広報部会 電話・Fax:03-3851-7431
発行:はじめの一步の会 発行人:篠原 良子